

働くお父さん・お母さんの声を市政に！ 貧しい人によりそった市政に！

掛川市議会 日本共産党だより

2018.11.1
第6号

**再生
エネルギー
の適切な推進の
ために有効な規制
等を盛り込んだ
ガイドラインの
早期制定を**

危険な原発から手を切って
持続可能な安心安全な
エネルギーの後押しを

◆勝川 ソーラーパネルを巡り様々な問題が各地で起こっている。規制がない内に、買い取り価格が有利な内に、と開発が急がれている。風力発電などについても早期のガイドライン等の規制を。

ソーラーシェアリング（農業とソーラーパネルの一体的な推進）も後押しできないか。

◇市長 ソーラーパネル設置については、県や国との整合性をはかり、ガイドラインを本年度内に案をまとめ、次年度に公表の予定。

その他の再生エネルギーについても適正な対応を検討。

これからもさらに再生エネルギーをどんどん導入できるように民間と協力しながら推進していきたい。

掛川市の放課後児童クラブの現状(2018年4月現在)

- ・21校（土方・中は合同）で37ヶ所設置
- ・児童数 1343名（定員 1245名）
定員越えは13ヶ所で発生
5年間で約1.5倍増（2013年は928名）
- ・委託先 社協15ヶ所・保護者会4ヶ所
地区10ヶ所・民間会社3ヶ所
社会福祉法人3ヶ所・民間2ヶ所
- ・法律で定めた6年生まで入所のできない学校
9校（全体の約4割）

子ども・子育て支援事業計画目標（2018年）
846名（低学年）+251名（高学年）=1097名
**を大きく上まわる需要となり
さらなる施設整備が求められている。**

放課後子ども教室は、現在11ヶ所で開設されているが、月1回・1時間半程度がほとんど。中心部の大規模校は実施場所や担い手がネックとなり実施されていない。



掛川市内でソーラパネルを設置して、農業生産と発電を両立させている田んぼ



〈発行〉
掛川市議会
日本共産党
掛川市長谷 1-1-1
〈連絡先〉
勝川しほこ
電話・FAX
22-1325
ご意見・ご要望をお寄せ下さい

**保護者の
ニーズに
応える放課後
子ども教室と
放課後児童
クラブの
あり方は**

「はぐくらぶ」構想を見直し
学童保育の充実を

◆勝川 市が策定した「はぐくらぶ」構想では子ども教室と学童保育を一体化させることになっているが広がっていない。必要の多い学童保育の充実のため、計画を見直す必要があるのではないか。

**生活
困窮者
支援を
伴走型の
あたたかいものに**

◆勝川 滞納者により国保の保険証が資格証明書に切り替えられたり、税金の滞納で差し押さえが行なわれている。滞納している人の困りごとに寄り添って、生活再建に先に取り組み、支援につなげていくことこそ大切ではないか。窓口への社会福祉士などの専門職配置もして、相談のワンストップ化を。就労支援のサポートステーションも年齢等も広げて拡充を。

◇市長 年度から本格的に検討をすすめる学校再編、学校施設の複合化や多目的利用の検討の中で学童保育も含めて考えていく予定。子どもの目線に立って何が一番いいのかということをしつかり考えていきたい。

◆勝川 学童保育の実施主体はあくまで掛川市。委託先の社協や保護会からももうこれ以上は無理だといわれ、民間も条件が悪くて手を上げない中、法令に定められた6年生までの学童保育ができるよう責任を持った整備と指導員の処遇改善をしてほしい。

◇子ども希望部長 できるだけ財源を確保する中で、少しでも処遇改善が図れるような努力はしていく。

全国にはこんな自治体も
滋賀県野洲市では…
**市税の滞納は市民からの
シグナルととらえ**

・「債権管理条例」「くらし支えあい条例」で滞納がある場合、生活再建に先に取り組む。

・就労支援も、債務処理も窓口を一本化して福祉専門職を置いて相談しやすく。



**「静岡方式」といわれる
伴走型支援の拡大を**

市民の力・地域の力を引き出してネットワーク化し、若者の就労支援だけでなく、生活困窮者支援など様々な困りごとに取り組む。

沼津市・富士市など県の東部を中心に広がっている

◇市長 担当のところに言ってもらえばしっかりと対応する。

就労支援については40才で打ち切るというところでなく、柔軟な対応を検討させていたただく。